

音楽文化創造学科教授 田中 範康

1. 研究活動

■作品発表			
Sparkling in the space IV =祈りの時= —ソプラノ、バスクラ リネットとエレクト ロニクスのため— (初演)	2013. 10. 5	主催：ニンフェアール 第10回公演 会場：名古屋音楽学校 ホール	ソプラノとバスクラリネットの離れた音域 に、その隙間をうめるようにエレクトロニク スの変調サウンドをアンサンブルさせてい る。全曲を通して、電子音の冷たさを感じさ せない、バランスの良い、そして暖色で自然 な広がりをかもし出す響きを、空間に放つ試 みをした作品。このために、今回は多くのサ ウンドファイルを使用しているが、これは、 Sop,B.Clの原音にMAX MSPによる波形編 集を行うことで作られた新しい音色素材であ る。 演奏は、Sop：森川栄子、B.Cl：青山映道 演奏時間 約12分

<p>Sparkling in the space III = 響宴の時= 一ギターとエレクトロニク スのための一 (世界初演)</p>	<p>2013. 10. 27</p>	<p>主催：Centro Mexicano para la Música y las Artes Sonoras del Fetival Visiones Sonoras 2013 会場：Museo Universitario Arte Contemporáneo (Mexico)</p>	<p>メキシコで行われた Noveno Festival Internacional Música y Nuevas Tecnologías のために書いた作品。 全曲は、3章に分かれており第1章はエレク トロニクスサウンドが中心であり、それにギ ターの断片的な楽想が絡んでいく。第2章は ギターが中心となるが、それに加え、第1章 を回帰させるようなエレクトロニクスサウン ドが曲の中間部を中心に絡んでくる。第3章 はギター、エレクトロニクスが対等な位置関 係で書かれている。そして互いのフレーズが 呼応するように作られた楽章である。 演奏は、ギターソロ：佐藤紀雄。 演奏時間 約 18分</p>
<p>「融合の時」 一尺八、13 絃箏、チェロの ための一 (世界初演)</p>	<p>2014. 3. 16</p>	<p>主催：Tenri Cultural Institute of New York 会場：Tenri Gallery in New York (New York USA)</p>	<p>本企画は邦楽器と洋楽器のコラボレーション による現代作品の演奏会である。今回の作品 の中で、邦楽器の響きと Vc がどのように融 合したアンサンブルを有機的に展開してい くかが創作上の大きな課題であった。 このために、構造的にも、そしてフレーズの 作り方についても、細心の注意をはらいなが ら、書き進めていったが、結局は響きを作る 原点である各楽器の音色と、その演奏法を分 析するという創作以前のことに着目すること で、違和感を生じない音像構築の可能性を見 いだす事が出来た。 演奏者は、尺八：James. Nyoraku Shulefer、 13 絃箏：木村陽子、VC：玉木ひかる。 演奏時間 約 11分</p>

2. 教育活動 (教育実践上の主な業績)

大学院授業担当 ■有 □無

<p>授業科目 作曲法研究Ⅳ</p>		<p>近年本学学生の、音楽的スキルの差 が大きくなってきており、専門基礎 の理論科目では学生の能力に応じた グレード別教育が必要と考える。ま た多様な専門性を尊重しながら、将 来音楽家として自立した時に、実際 に役立つ内容での教育が必要と考 える。そのためには、音楽の骨格を学 ぶ専門基礎科目の、特に理論分野で 学んだ知識が、机上の理論で終わ ってしまわないよう、個々の音楽表 現の中で生かされるよう教育的な工 夫を考えていかななくてはならな い。その一つとして、音楽基礎科目 の重要性と意義を学生達が正しく 理解できるよう、編曲、作曲などを 体験する事が、音楽の洞察が深め る一つの方法であると言える。従 って、授業の内容を、より創造的な 方法に改善する必要があると思わ れる。</p>
<p>◆前期 ◆後期</p>		
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>	
<p>作曲理論コース4年次の専門科目である。個々の学生の個性に応じて、無調音楽(主に器楽作品)を中心に指導していく。そのために、20世紀から、現在にいたる様々な現代作品の譜例を示しながら、同時に実際に鑑賞を通じて、無調音楽の響きの世界を理解させていった。</p>	<p>現代作品のスコア・CD</p>	
<p>授業科目 対位法</p>		
<p>◆前期 ◆後期</p>		
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>	
<p>演奏学科が対象であるため、対位法の概論的な授業を展開していく。前期では最終的に、2声の純粋対位法(華麗対位法)を実習させる。後期は2声のインベンションを一定の書式で実施させる。対唱をこちらで与え、経過句は反復進行によ</p>	<p>ホセ・イグナチオ テホン「パレストリーナ様式による対位法」 バッハのインベンション、パレストリーナ作品の楽譜</p>	

<p>る和音進行を基本とすることで、初心者でも作りやすいよう配慮した。さらに、ポリフォニー音楽の代表的な作品の鑑賞、一部分析などを通じて、対位法音楽がより深く理解できるよう工夫した。</p>	
<p>授業科目 音楽制作実習ⅠⅡ</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>本科目では、基本的にはカレドスコープへの作品提供を目指す。履修学生の中には、ポップスに傾倒している学生もいるが、映像とのコラボレーションや新しい音楽、響きの構成方法を、実例を示す事を通じて、よりアート性に富んだ音楽作品が作れるよう工夫した。そして、これらの内容を音楽制作実習Ⅰ、Ⅱで、2年間継続的に履修する事が、学生個々の音楽的スキル向上のみならず、様々な音楽シーンで即応できる人材育成につながると考えられる。</p>	<p>各種音源・MaxMsp.その他の電子デバイス</p>
<p>授業科目 作曲法研究Ⅲ</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>本科目では、個々の学生の能力に合わせて、和声学、対位法、楽曲分析などの作曲理論の不足部分をおぎないながら、並行して、無調音楽の理論的理解のために、様々な現代の作品を紹介していく。その上で、多様なスタイルによる断片的作品を書かせ、作曲の基本テクニックの上達と理解を目指す。</p>	<p>現代作品のスコア・CD</p>
<p>授業科目 音楽応用演習Ⅱ</p>	
<p>◆前期 ◆後期</p>	
<p>工夫の概要</p>	<p>教材・資料等の概要</p>
<p>音楽療法コースの対象の本科目では、和声学、ソルフェージュの内容に加え、後期では、各学生が音楽療法の実習で使える、実際のセッションの様々なシーンで使える作品作りをさせた。その結果、音楽の理論的理解が深まり、さらに音楽を作る事で、様々な表現方法の応用力が身につけられるよう配慮した。</p>	<p>和声学1 本学発行の課題集</p>

授業科目 和声学特論	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
ピアノコース対象の授業であり、シャランの 380 課題の中から、特に 7 の和音について正しい理解ができることに重点をおいて授業を進めた。また自分で実施した課題を必ずピアノで弾くことを指導することで、旋法的な響きを垣間みる、フランス和声の響きの流れを敏感に感じ取れるようになっていった。	和声学 (シャラン 380 課題)

3. 学会等および社会における主な活動

カワイ音楽コンクール 中部本選会	2013. 4	審査員
2013 カワイドリマートンコンクール 地区本選会	2013. 4	審査員 講評
ヤマハグレード試験官 3, 4, 5 級	2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31 現在に至る	試験官
日本作曲家協議会	2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31 現在に至る	会員
日本現代音楽協会	2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31 現在に至る	会員
日口音楽家協会	2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31 現在に至る	会員